

アキヤマさんのマウナケア

まずはイオラニ小学校6年生のレーチェルちゃんがおじいちゃん、ミツオ・アキヤマにインタビューした記事を読んでください。アキヤマさんはマウナケアに天文台を誘致するのに努力した人で、この人のおかげで現在のすばる計画も走っているのです。

英雄 小学6年 レーチェル・ヤマカワ

1996年1月16日

マウナケアの天文台に行った人はどんなに頭のいい人がこの高い広い所から星をけんきゅうしようと言うアイデアを思いついたか考えたことがありますか。夜中に寒いヒロから山を登って行って昔は何もなかったマウナケアの上で観測するなんて考えてもご覧下さい。えーと、それは私のおじいちゃんミツオ・アキヤマがこのビッグ・アイランドのこの山から星を観測する事を始めると言う事を考えついたからなのです。マウナケアは私のおじいちゃんのおかげで天文学の基地として良く知られています。

ある晴れた涼しい日にマウナロア气象台で働いていたおじいちゃんの昔からの友達、ハワード・エリスがおじいちゃんの事務所に来たときにすべてが始まりました。その日は快晴で、何か特別ですてきな事が起こりそうな予感がありました。エリスさんがおじいちゃんを目をじっと見ながら「毎日マウナロアで働いてマウナケアを見るのだがまだあの山は空っぽだね。何かやろうよ。」と言ったとき陽はさんさんと後ろで照っていました。

おじいちゃんは1963年に多くのアメリカの大学にマウナケアの頂上で研究をすることができるかどうか、と言う問い合わせの手紙を書きました。誰も返事を呉れず、この計画は駄目か、と思われた頃、アリゾナ大学の有名な天文学者ジェラルド・カイパー博士からの手紙が届きました。彼はマウナ

ケアの調査に大変興味がある、と書いてきました。

カイパー博士がマウナケアの夜に小さな望遠鏡を使って調査するよう観測者を連れて来て、計画は始まりました。そこで6ヶ月の間観測者は月と星を観測し記録してすべてをカイパー博士に報告しました。

6ヶ月の間にマウナケアでの天文学の調査で沢山のことが分かりました。マウナケアは月や星を観測するのに世界で一番良い場所であることが知られるようになりました。カイパー博士は観測を妨げる町の光が無いので良い場所だと言いました。カイパー博士は大変良い人でおじいちゃんは助けて上げるだけではなく、より多くの時間を使い沢山の努力を払いました。これは新しいことであり、それを始めるのは難しいことなので、おじいちゃんは仕事が大変だと言うことは知っていたのです。

仕事が終わったときおじいちゃんはとても幸せで、現在のような大事業になるのを知って誇りに思いました。今ではマウナケアの上に大きな天文台が10もあり、そのうち二つは世界で最大なのです。すぐ後から他の大学が興味を示し天文台を建設し始めたので時間と努力を掛けた甲斐はあったのだよ、とおじいちゃんは説明しました。これを行っている間おじいちゃんは何も心配はしませんでした。カイパー博士は大変尊敬されており、世界の偉大な天文学者の一人だったから、彼が世界で一番良い場所を見つけたと言ったとき、皆信用したからです。

6ヶ月の試験観測でおじいちゃん、ミツオ・アキヤマとジェラルド・カイパー博士は他の人が考えつかなかった大変な事をやり遂げたのです。カイパー博士とおじいちゃんがマウナケアに行って試験観測をしようと決めた日は天文学の世界を変え、人々と天文学の後輩達への道を開いたのです。おじいちゃん、おじいちゃんが人生のアイドルのように思っているジェラルド・カイパー博士の二人の英雄がいなかったら多くのことが未知のまま残されたでしょう。それ以来多くのことが研究されました。



オ・オ・スティックを持つアキヤマさんとシズエ夫人。うしろにあるのはお孫さん達が描いた金婚式のための壁掛け。

もしあなたがマウナケアの天文台に行く事があればヒロの町を見おろして、これを可能にした二人の人、ジェラルド・カイパー博士と私のおじいちゃん、ミツオ・アキヤマの事を思い出してください。
インタビュー記事終わり

アキヤマさんは当時ハワイ島商工会議所の書記を勤めていて、ハワイ島を活性化するために考えたのが天文学をマウナケアに誘致することだったのです。10数通だした手紙の中には日本の研究所も含まれていたようですが、記事にあるとおりカイパー博士だけが返事をくれ、そして調査が始まったのです。調査が終わった後NASAの資金で2mクラスの望遠鏡を建設する事になったとき、アリゾナ大学ではなくて当時天文学施設としてはマウイ島に太陽観測所を持つだけだったハワイ大学が担当することになったのです。それでカイパー博士とアキヤマさんの名前はしばらく忘れられたような形になっていました。しかし最近になってハワイ大学天文学研究所のドン・ホール所長は二人の名前が何らかの形でマウナケアに残されるよう努力をはらっています。

1992年8月、すばる望遠鏡起工式の参加者の一群が帰ってしまって静かになったある日、調査で訪れていた頃から何かと私の面倒を見てくれていたジョージ・ヤマモトがアキヤマさんからの手紙と分厚い資料を届けてくれました。その資料に先ほど紹介した記事の内容が書いてあったのです。なるべく早く皆さんにこの話を紹介したいと思いながら、仕事の忙しさにかまけて遅くなってしまいました。

アキヤマさんはシズエ夫人との二人暮らしです。一度家内と一緒に食事に誘ってくださり、その後お宅にお邪魔しました。お宅にはいろいろな収集品がところ狭しとばかり並べてありま

したが、その中でマウナケアの調査時代にプウ・ポリアフの上から持ってきたと言う火山弾がありました。欲しいなと思いながら言い出すことはできませんでした。その後マウナケアに登るたびに気を付けていたのですがなかなか見つかる物ではありません。

今年の2月に山麓施設の起工式が行われたときに参列して下さるようお願いしたのですが、ホノルルに行っていると言うことで来ていただけませんでした。それで、ハワイでは起工式のくわ入れに使うオ・オ・スティックの一本を後ほどお届けに上がりました。大変喜んでくださり、そしてレーチェルちゃんの記事のコピーをくださったのです。そして帰り際になんと前から欲しいと思っていたプウ・ポリアフの火山弾の標本をくださったのです。これはヒロ・オフィスのどこかにずっと飾っておきたいと思います。皆様も将来ハワイにすばる望遠鏡を訪れることがあったら、マウナケアから下を眺め、またオフィスの火山弾を見てアキヤマさんとカイパー博士のことを思い出してください。

国立天文台すばるプロジェクト・ヒロ仮事務所
成相恭二